

平成 26 年度 財務諸表の概要

横須賀市は、平成 10 年度決算から企業会計（民間企業が採用する複式簿記の手法）の考え方を取り入れた財務諸表を作成しています。

市の予算決算は、市民の皆さんにご負担いただいた税金などのつかい方について計画と結果をお知らせするものですが、その中で生まれる資産（財産）や負債（借金）を加えて、どのような財政状況かを示すものが財務諸表になります。

本市では、平成 19 年度決算から「総務省方式改訂モデル」という作成方法を採用し、貸借対照表・行政コスト計算書・純資産変動計算書・資金収支計算書の 4 種類の財務諸表を作成しています。

全国共通の会計規模である「普通会計」、その他の特別会計を含めた「横須賀市全会計」、そして外郭団体なども含めた「連結会計」と、対象会計別に 3 種類の財務諸表がありますが、ここでは普通会計版を掲載しています。

貸借対照表

「貸借対照表」は、公共施設や学校、現金などの市の資産と、それらを取得するために使われた市税や市債（借金）などの財源を示しています。

資産の合計と（負債＋純資産）の合計が同じ額でバランスが取れることから「バランスシート」とも呼ばれています。

資 産 9,683 億円

市が所有する財産の金額です

【内訳】

公共資産	9,167 億円
投資等	342 億円
流動資産	174 億円
うち歳計現金	41 億円

負 債 1,991 億円

左の資産を形成するために市債（借金）などにより将来の世代が負担する金額です。

純資産 7,692 億円

左の資産を形成するために今までの世代が負担した支払済みの金額です。

計 9,683 億円

計 9,683 億円

資金収支計算書

市の 1 年間の現金収入と支出が、どのような原因で増減しているかを表します。

経常収支から公共資産整備収支や投資・財務的収支に市の一般財源を充当し、借金の返済などに使っていることがわかります。

H25 年度末残高 45 億円

当期収支 Δ4 億円

【内訳】

経常的収支	222 億円
公共資産整備収支	Δ26 億円
投資・財務的収支	Δ200 億円

H26 年度末残高 41 億円

純資産変動計算書

市の純資産が、平成 26 年度中にどのように増減したかを表します。

H25 年度末残高 7,771 億円

当期変動高 Δ79 億円

【内訳】

純経常行政コスト	Δ 1,213 億円
財源調達分	1,129 億円
資産評価替えなど	5 億円

H26 年度末残高 7,692 億円

行政コスト計算書

市の行政活動は、公共施設の整備のように資産形成につながらない保健医療や福祉、ごみの収集といったサービスが数多くあります。

行政コスト計算書は、このような行政サービスのコストと使用料などの受益者負担金を対比させ、サービスの提供にどのくらいの税金（国県補助金等を含む）を投入しているのか表しています。

経常行政コスト① 1,262 億円

【内訳】

人にかかるコスト	260 億円
職員給与など	
物にかかるコスト	361 億円
物品購入費、修繕費など	
移転支出的コスト	620 億円
児童手当などの給付費など	
その他のコスト	21 億円
市債の利子など	

経常収益② 49 億円

施設使用料など行政サービスの受益者負担金です。

純行政コスト(①-②) 1,213 億円

経常行政コストから受益者負担金を差し引いた額です。この額が税金で賄われていることを表しています。